

本校の性格と任務

本校は、教育基本法及び学校教育法第45条に基づいて、中等普通教育を推進するとともに、国立大学法人の附属学校に関する制令による山梨大学教育学部の附属学校として、次の各項を特別の任務とする。

- 1 教育学部の教育研究計画と密接な連携のもとに、中学校教育の理論及び実際に関する研究並びにその実験・実証に寄与する。
- 2 教育学部の教育実習計画に基づき、教育実習生の授業観察、教育実習の実施及び指導に当たる。
- 3 本校の教育研究の成果を広く公開し、また、公立学校の研究や現職教育に協力して、県下の中学校教育の推進に寄与する。

学校沿革概要

- S 22 6・3制による国立新制中学校として、焼け残った師範学校の音楽室・講堂を仮校舎に創立発足する。
- S 23 山梨師範学校寄宿舎の移転。第1回公開研究会。
- S 24 山梨大学設置に伴い、山梨大学山梨師範学校附属中学校となる。
- S 26 山梨大学学芸学部附属中学校となる。
- S 27 校歌、生徒会歌制定。
- S 29 甲府市北新町（旧63部隊跡）に校舎落成。教育目標制定。
- S 30 山梨大学規定により附属小中に教頭を設ける。
- S 31 増築校舎（合併教室）竣工。
- S 33 制服制定。
- S 34 特別教室（理科室、同準備室、美術室、家庭科室、職業工作室）竣工。
- S 35 校旗樹立。放送室竣工。
- S 36 プール竣工。
- S 38 体育館（含付属建物）竣工。
- S 40 特別教室（音楽室、同準備室）竣工。新1年4学級となる。努力目標制定。
- S 41 増築鉄筋校舎4教室竣工。山梨大学教育学部附属中学校となる。
- S 42 運動場整備。
- S 43 普通教室及び付属教室（鉄筋3階建）校舎竣工（12教室）。
- S 44 本部及び付属教室（鉄筋3階建）校舎竣工。
- S 45 体育館、L・L教室設置。
- S 46 音楽室増築、技術金工室、教官室、校長室、CCTV教室竣工。前庭整備。理科園新築。校地内道路舗装。
- S 47 岩石園設置及び教官室周辺の庭園整備。運動場拡張整備。外柵設置。校地内道路舗装。
- S 49 校舎北側溝設置。音楽室周辺舗装。普通教室用暗幕設置。
- S 50 桐の木（50本）植樹。教頭を副校長と称す（10月1日）。
- S 51 テニスコートの新設移転。
- S 52 体育館にステージ増設。ピアノ設置。
- S 53 体育館に暗幕、どん帳を設置。
- S 54 関附連山梨大会開催。
- S 55 放送施設カラー化完成。屋体への渡り廊下竣工。
- S 56 体育館一部補修。ガストーブ設置。
- S 57 保健体育科授業分析装置一式設置。受水槽（30トン）新設。

- S 58 地震対策として転倒防止設備を強化。清掃用具ロッカー設置。
- S 59 普通教室の耐震工事施工。男子トイレ節水装置設置。東門整備工事施工。
- S 60 卒業記念品として「校歌の碑」設置。
- S 61 管理棟耐震，特別教室外壁塗装工事。校歌メロディチャイム新設。関附連山梨大会開催。卒業記念品として「努力目標の碑」設置。
- S 62 P C 12セット（＋教師用1セット）新設。
- S 63 P C 11セット新設。技術室天井コンセント配線工事。
- H 1 桐華館竣工(11.13式典)。
- H 2 全附連関東・東海・北陸指導者研究大会開催。
- H 3 焼却炉の新設，電話ファクス設置。紅白幕，演台，どん張設置。
- H 4 P C 教室増設。学校の位置の碑設置。教官室防水工事。
- H 5 屋外用ワイヤレスアンプ一式設置。
- H 6 第1 P C 室のインターネット接続工事。
- H 7 通産省・文部省より100校プロジェクト校指定（9年）。陶芸釜（電気式）設置。体育館防球ネット設置。
- H 8 開学50周年記念式典，同窓会総会・祝賀会開催。ガス冷暖房に切り替え。別館内外装改修工事。岩石園プレート修理。
- H 9 小・中学校プール新築工事開始。拡大コピー機，保健室用 P C，図書室用 P C 設置。
- H 10 山梨大学教育人間科学部附属中学校となる。小・中学校プール竣工。教育実習生控室整備。第1 P C 室，第2 P C 室，図書室の設備充実。校内ネットワーク環境の充実。
- H 11 文部省より「研究開発校」の指定を受ける（～13年）。
- H 12 テニスコート補修。光ファイバー設置。生徒用机，椅子新調。物置設置。関附連山梨大会事務局校。駐輪場新設。
- H 13 普通教室内装工事。生徒用トイレリフォーム。前庭舗装。イントラパケッツ導入。体育館暗幕新調，床改修及びライン引き直し。赤煉瓦館竣工。
- H 14 普通教室加湿器等整備。
- H 15 普通教室扇風機等整備。体育館放送機材一式整備。渡り廊下施設整備。
- H 16 前庭時計の設置及び物置設置。P C 室機器更新。階段手すりの設置。
- H 17 防犯システム工事（校内一斉通報システム）。体育館床補修，耐震工事。照明器具設置（体育館への通路，裏門入口）。
- H 18 防球ネット取り付け。
- H 19 グラウンド北ネットフェンス取り付け。緊急地震速報に対する放送設備工事。校内放送配線取り付け。職員 P C 等の充実（1人1台 P C），テント購入。
- H 20 西門雨水桝設置工事。グラウンド北体育倉庫取り壊し及び物置設置。グラウンド南側石灰用物置設置。岩石園プレート付け替え。主幹教諭を置く。少年議会事務局校。
- H 21 特別教室等（技術科室，美術室，理科室，音楽室，保健室，放送室，図書室，第1 P C 室，全体教官室）改修。体育館床改修。桐華館地下改修。各階に冷水器購入。
- H 22 グラウンドの砂場の整備。体育倉庫を相談室に改修。1学年教官室の拡張。校長室に会議用のテーブル・椅子設置。ホームページ改訂。
- H 23 普通教室の空調設備工事。普通教室・特別教室に加湿器購入。グラウンドのスタンド補修。体育館への階段補修。国語科研究室整備。
- H 24 顕微鏡等の理科備品整備。デジタル身長体重計，ワイヤレスモニター購入。生徒用印刷機設置。全体教官室・英語科研究室整備。
- H 25 体育館緞帳・暗幕設置。体育教官室・生徒相談室エアコン設置。普通教室黒板白板張り替え。来客用靴入れ新調。防災倉庫新設。タブレット P C 導入。理科備品購入。社会科研究室整備。生徒玄関すのこ新調。
- H 26 第1 P C 室電子黒板設置。生徒用ロッカー新調。体育館冷水器設置。中央階段手摺

- 設置。数学科研究室整備。体育館パイプ椅子160脚新調。
- H27 理科研究室・家庭科研究室整備。社会科研究室用机・椅子。家庭科室生徒用丸椅子16脚。校庭電波時計設置補助。多目的トイレ設置。
- H28 山梨大学教育学部附属中学校となる。音楽研究室整備。全体教官室北側壁への壁掛内照長波時計設置補助。
- H29 開学70周年記念特別講演会開催。美術研究室整備。生徒玄関庇補修工事。3年学年教官室書棚等整備。
- H30 図書館司書室書棚整備。防犯ビデオ追加。1・2年学年教官室書棚等整備。美術室電子黒板設置。

附属四校園の教育活動を貫く育成を目指す「子ども像」

個人の尊厳を重んじ、多様な文化や価値観を受け入れ、自ら課題を見いだし、解決に努力する積極性・先見性・創造性に富んだ子ども

学校教育目標

- 学ぶことに誠実な生徒
- 健康で情操豊かな生徒
- 自らの可能性に積極的に挑戦する生徒
- 互いの良さを認める生徒

学校経営の方針

- 大学附属中学校としてのあり方の深化と展開（附属学校独自の教育実践の展開，地域パイロット校としての役割，教育実習の指導と充実，大学や本学の他の学校園との連携・研究交流，他校や研究機関との研究交流の推進）
- 新学習指導要領に基づいた教育課程編成の検討と移行期の必要な取組の実施（教科教育・道徳教育・SELFの適正な計画と内容の下での授業実施）
- 学校教育目標の推進（「学校教育目標」の意味の再考と推進，「つけさせたい」学力や生活習慣の伸長と全校生徒の健康の維持管理）
- 安全管理の指導と徹底（突発的災害への備えと緊急メールシステムの運用管理，防災意識や危機管理意識の向上，学校内外での事故やけがの減少，自転車通学のマナー等の遵守と交通安全指導の徹底）
- 生徒個々の問題に対する共通理解といじめに関する生徒指導の強化（教師間の情報共有・ケース会議やQ U調査の実施を通じていじめに対する予防や対処の推進と環境整備の充実，ネットトラブルへの保護者との連携協力を含めた対策と対応）
- 教職員の緊密な連携と組織運営の効率化，次年度への引継ぎの徹底
- 学校評価の次年度への有効な活用（課題の明確化と次年度重点項目への反映）
- キャリア教育の改善と充実（職業選択指導を含めた3年間の系統的・体系的な進路指導計画の実施，各学年の状況に応じた指導の充実）
- 学校の情報提供の充実（ホームページの内容の充実，学校情報の発信・提供）
- P T Aの連携（情報交換や行事での協力体制の確立）
- 地域の人から愛され親しまれる学校づくり（地域の方への安全配慮の徹底，本校教育への理解を促すための情報提供）

学校経営の重点

- (1) 品位ある言動ができる生徒の育成を目指す指導の徹底
 - 生徒理解を深めるとともに、きめ細やかで丁寧な生徒指導の推進
 - スクールカウンセラーや山梨大学教育相談室のと連携と各種教育機関、医療機関等の創造的活用
 - 基礎的・基本的学習内容の徹底指導
- (2) 研究実践と各種研究会の充実
- (3) 教育実習の充実
- (4) 校外学習、学園祭、合唱など、諸行事の効率的な企画・運営による教育効果の高揚
- (5) 学校経営の方針を受けた、学年ごとの目標、指導重点に基づく学年経営の充実

校内研究

【研究主題】 新たな世界を主体的に創造する生徒の育成
～教科等横断的な教育課程の実現に向けて～（3年計画の最終年次）

◆めざす生徒像「新たな世界を主体的に創造する生徒」

○具体的な姿

- ・高い志や意欲をもって、課題を発見・解決し主体的に学びに向かうことができる。
- ・自他の考えを認め合いながら、個人・集団の考えを深めたり発展させたりすることができる。
- ・感性を豊かに働かせながら、課題を発見・解決し、新たな価値を創造することができる。

◆「見方・考え方」を働かせた学び（1年次）

本校で考える、「見方・考え方」を働かせた学びとは、『各教科等の特質に応じた「見方・考え方」』にそって、生徒が持つ、スキーマ（経験則）や認識の枠組みをより良いものに修正したり、鍛えたりして、豊かで確かなものとし、その深い認識をもとに資質・能力を育むことであると考え、研究を進めてきた。その中で、生徒の学習過程に以下の4つの要素を位置づけていくことが明らかになった。

○教材・題材との出会い（生徒がこれまでの自分のスキーマとのずれに、疑問をもつ。）

○学習課題の設定（生徒の疑問と教材価値をすり合わせ、学習課題を設定する。）

○学習課題の解決（既有知識や自他の考えを活用しながら、課題を解決する。）

○自己の変容への気づき（自分の「学び」に価値を見出し、「学び方」を自覚する。）

◆資質・能力を見取る評価の在り方（2年次）

1年次に具体化してきた「見方・考え方を働かせた学び」を充実させ、指導と評価の一体化をめざすべく、特に形成的評価と総括的評価に重点を置き、各教科で「生徒の学習調整を促す形成的評価の工夫」「資質・能力を可視化する工夫」を中心に実践を積み重ねた。形成的評価に関しては、どの教科も生徒に思考過程を記述させることで、教師が見取るだけでなく、生徒が自己の学びを自覚し、自己のメタ認知能力を高めるということが明らかになった。総括的評価に関しては、身に付けさせたい資質・能力を具現化した、言語活動やパフォーマンス課題を設定した実践を行う中で、授業を構造化することの重要性が明らかになった。

◆教科等横断的な教育課程の実現に向けて

2年次までの研究の成果と課題を踏まえながら，さらに教科研究を深化させ，生徒の「学びの質」を高め，各教科で育成をめざす資質・能力が身に付くよう，指導と評価の在り方についての研究をしていく。

一方で，各教科で身に付けた資質・能力を教科の領域でとどめるのではなく，実生活の様々な場面で活用できる資質・能力とするために教科等横断的な視点に立つことの必要性があると考え。そこで，本校における総合的な学習の時間（本校では，SELFと呼ぶ）を実生活により近い場面として位置づけ，各教科で身に付けた知識・技能がどのように活用できるのか，教科等横断的な視点から教育課程の編成を検討していきたいと考える。